

川を巡る旅

この小さな川を遡ってみよう！

佐須用水が野川に流れ込む細田橋の上流隣、大橋の近くに流れ落ちる川がある。この川の源はどこだろう。カメラ片手に自転車でたどってみる。(NK)



まずはゴール地点。野川との段差がある流れ込み口。(野川左岸)



北側の住宅地の中を流れてくる。川の上に鉄板を渡し、こんな風に花壇になっているところも・・・。



宅地から佐須街道をくぐった北側の柏野小学校西横ではコンクリートのフタがされている。



更に宅地の合間を流れ、三鷹通りの下へもぐっている。



三鷹通りをくぐると倉庫の敷地をぬけ、高速道路下のトンネルへ。トンネル脇が水路になっている。



トンネルを出るとすぐ北側の水生植物園から流れは来ている。流れ確認のため入り口から廻って見る。清流といった趣。



水生植物園へ流れ込んでいる水は深大寺通りの下から流れて来ている。



そば屋奥から流れて来る辺りにはこんな洒落た橋も架かっている。



そば屋街の流れは弁財天の池からくるようだが池の水はどこから？



どうやら水神苑脇のこの流れから来ているようだ。ここまで来れば...



途中では水神苑や深大寺境内のくみ上げ水も一緒に流れているようだが、スタート地点は、逆川として知られる深沙大王堂裏、不動明王像の後ろの崖から湧き出している「湧泉」。

調布の自然

昆虫編

ウラナミシジミ

まだまだ残暑が厳しいとはいいつつも、次第に朝晩は涼しさを増してきました。日中のセミの声に加えて、夜間にはエンマコオロギ等のコオロギ類やカナタキ等のバッタ目(直翅目)の鳴き声も聞こえてくるようになり、季節的には秋に入ったことを実感する今日この頃です。

「秋の虫」といって思い浮かぶのは、前述したコオロギ類やキリギリス類、赤とんぼとして知られ、アキアカネに代表されるアカネ類等ですが、チョウの仲間にもいわゆる「秋の蝶」というものがあります。

この秋の蝶の代表的なものの一つが、今回紹介する「ウラナミシジミ」です。本種はその名の通り、羽根の

裏面に波形の模様を持つ、前翅長15~20mm くらいの小型のチョウで、主に日当たりの良い草原に生息しています。もともと熱帯~亜熱帯にかけて広く分布する移動性が高いチョウで、春~秋にかけて温帯域に分布を広げますが、冬には寒さのため死滅するというライフサイクルを繰り返しています。調布市においても、秋に個体数が増加し、クズ等が茂る河川敷や林縁で、多く見ることができますが、現時点では冬を越すことができません。しかし、地球温暖化が進む中、いずれ、東京でも本種が冬越しできる日が来るかもしれません。(石川和宏)



こどもエコクラブ 「多摩川源流ツアー」

8月8日(水)～9日(木) 小学3年生以上の子どもたち17人と多摩川源流が流れる山梨県小菅村に行ってきました。

初日、ヘルメットとライフジャケットを着用して源流体験へ出発。この体験コースの最難関は「ロープ渡り」。ロープ3本をつかみながら足場のない岩を越えるというもの。この体験は怖かったけど一番楽しかったようです。コース最後には小さな滝つぼがあり、みんなで飛び込み。源流体験終了後は、近くの温泉で体を温めました。



宿泊地は原始村というキャンプ場。竪穴式住居や横穴式住居を再現した部屋です。電気を消すと真っ暗で、虫も入口や窓から入ってきてしまう部屋で、はじめは「嫌だー!」と言っていた女の子たちも、それで意気投合したのか、同部屋同士仲良くなり、夜、部屋からは楽しそうな声が聞こえてきました。

2日目、早朝バードウォッチング。姿を見ることは難しかったけど、たくさんの野鳥の声を聴くことができました。朝食後は、近くの川でヤマメのつかみどり。ヌルヌルして気持ち悪い、なんて言っていた子も友達と協力し合っつつつかまえることができました。つかまえた魚は割りばしを使って内臓を出し串に刺します。その後焼いた魚とおにぎりを食べ、原始村を後にしました。

帰りは小河内ダムに寄り、ダムと水の資料館を見学。2日間、いっぱい学んでいっぱい遊んで、バスではぐっすり…。水や森の大切さを肌で感じられた夏休みの一コマになったかな? (環境政策課 早野)

水辺の楽校 夏のアユまつり



8月18日(土) 多摩川ニヶ領上河原堰に布田小と富士見台小の児童が集まって魚捕りの川遊びが行われた。

前日までの猛暑がひと段落。この日、スペシャルゲストとして紹介された中本賢さん。中本さんは俳優業以上に有名なのが「ガサガサ探検隊」という肩書き。その他、移動水族館(?)の活動をなさっている方など川のスペシャリスト数名が指導役。その方達をリーダーにニヶ領上河原堰の上と下で魚を探した。

短パン、T シャツ、スニーカーという普段着の上にライフジャケットを着た子ども達はサポーターの大人に促され、ジャブジャブと川中央へ。「首までつかって～」のかけ声と共に全身で川を体感し、テンションが上がる。その後ひょうたん島といわれる中州の周りや魚道のあたりで網を使いながら足で川底を探った。

獲れた魚は水槽に入れて、種類の確認をしながら数を数えた。今年は河口の水門が開かれたとかで、この辺りではめずらしいマハゼも数匹、その他タモロコ、ドジョウ、スジエビ、ザリガニ、もちろんアユ。全部で24種300匹近い川の生物を観察できた。アユをそっと手のひらに乗せ、匂いをかぐとスイカのような香り。どの子ども遊びながら充分多摩川に親しめたことだろう。

水辺の楽校が軌道に乗ればこれからもこのような楽しい機会が増えるに違いない。

(レポート: NK)



◆ カニ山の会

8/11(土) 晴れ 10:00~12:00
参加者 10名

朝から30度を越す暑さだが、雑木林の中はやや涼しい。新たに「自然だよりを見て来ました」という方も加わり、10時に集合した10人が3班に分かれ活動開始。樹林の入り口に、低い柵のようなものを作製する人、東側の笹刈をする人、南東の樹木の枝を整理する人。

ほの暗い林床には沢山のヤブラン。そして嬉しいことにキツネノカミソリが昨年より元気に咲いている。手入れをした分光量が少し増えたのだろうか。樹林地入り口に設置する案内板(カニ山の会)は自然のイメージをそこなわないよう木製にしたい。



西南側階段付近において、残材整理により裸地が表れたため、林縁部保護の柵を設置



オレンジ色が美しいキツネノカミソリ

◆ 環境モニター

8月は夏休みのため活動はありませんでした。

◆ 田んぼの学校

● 今年の稲の育ち具合は?

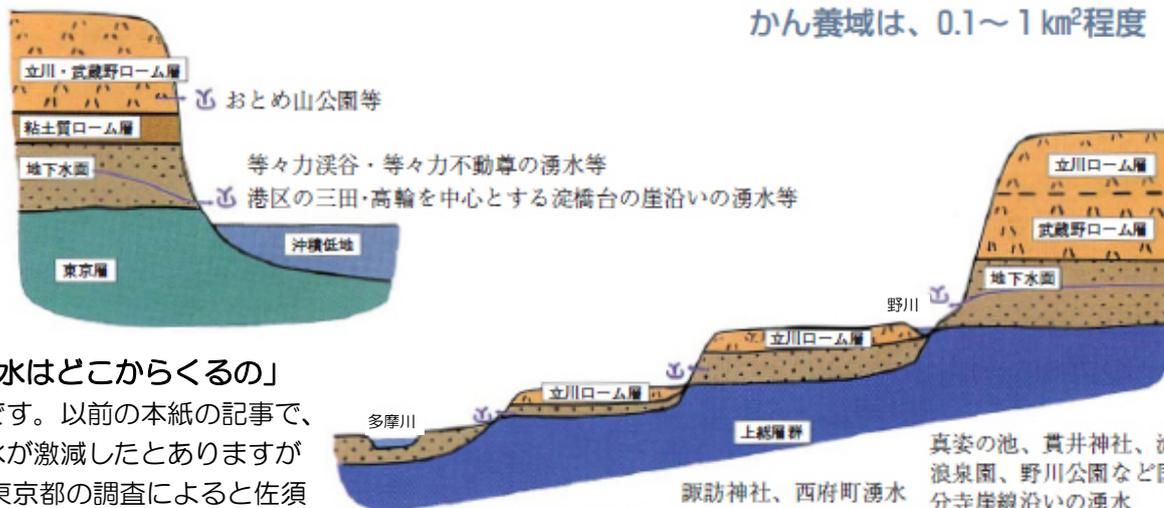
例年になく梅雨明けの遅い年となり、出穂がほんの少し遅れた感じですが、でも8月に入るとすぐにうるち米が、そしてもち米が穂を出し始め、開花が見られました。稲はとても元気に育っています

田んぼで観察される生き物については、ここ数年数が減っているように感じます。アマガエルや稲の葉を食べる害虫のイチモンジセセリも今年は発生が少なかったようです。9月には田んぼの生き物採集やメダカ救出作戦を予定しますので楽しみにし

がいせん
崖線タイプ

水のお話 佐須用水編③

台地の崖の前面から湧出するタイプ
かん養域は、0.1~1 km²程度



「佐須用水の水はどこからくるの」

前回の続きです。以前の紙の記事で、神代農場の湧水が激減したとありますが2002年度の東京都の調査によると佐須用水は季節的に変化しながらも約500~700リットル毎分。ちなみに野川公園の湧水量は年間を通じてほぼ600リットル毎分と、野川公園の湧水に引けをとらない量が計測されています。野川公園一帯で見れば、公園内の北側、国分寺崖線のハケに沿っていくつもの湧水がありますので、水量はもっと豊富なかもしれません。国分寺崖線上の国際基督教大学など、水がしみ込むことができる広い地面(水源涵養地)があるためと考えられます。

佐須用水は、まとまった雨の後数日から1週間ぐらいは水が湧きますが、晴天が続くとすぐに涸れてしまうというのが現状です。その原因として、水源涵養地の減少などがあげられます。谷戸の水源となる地域は湧水地点から高い標高に向かい半径約100~1000mの雨水がしみ込む範囲と考えられています。神代植物園を含む三

鷹通りの西側一角、そして深大寺五差路から中央高速に向かう道路の南側が、佐須用水の水源地と考えられますが、その周りには、複数の用水や暗渠などが存在し、雨水は別ルートへ流れていってしまいます。また舗装道路や大きな建物なども地下の水道(みずみち)影響を及ぼすといわれています。

そうしたものが無かった昔は、水量は豊富で、昭和の20~30年代以前、深大寺自然広場には池があり、サワガニがたくさん住み、この一帯に水車小屋が4、5軒あったそうです。そして今も調布市民の飲料水として地下水をくみ上げていることなどをご存知ですか。…… 続く。(こんどう)

図：東京都資料より

ていてください。夏休み明け、また元気に皆さんとお会いしましょう(田んぼの学校 こんどう)



8月13日風にたなびく稲穂。左側がうるち米で先に穂が伸びている。

イチモンジセセリの幼虫



◆入間・樹林の会

7月15日は台風のため活動を中止したため、8月19日は2ヶ月ぶりの活動となりました。樹林地に入ると、マテバシイの広場は、ヤブミョウガ・ハタバコで覆われ一見してうっそうとした感じがし、一方、落ち葉がきをしない部分は光も入らないせいか、下草植物が少なく対照的な光景でした。

方形枠調査をすすめると8番枠(民家との境界)付近はこれまでなかったクズが繁茂していました。クズはこの時期地下茎に養分をためるとのことので今後の勢力をそぐためにも刈り取りました。特にこの区域に多く繁茂し、講師の根本さんから要注意との指摘あり。今後もこのクズとの闘いは続きそうです。プチ違いシリーズは、ヤブガラシとアマチャツルで、毛の有

無・葉の緑色の濃さで判断します。花は、ヤブラン、ハエドクソウ、ヒナタイノコズチ、ミズヒキ、ヤブミョウガ、クサギ、実はヤブミョウガ、アズマネザサ、マンリョウ。柿も実がなっていました。雑木林広場では、モグラが走っている土の盛り上がりがありこれもまた新たな現象です。「暑かった」との参加者の感想とともに、あらためて毎月行う活動の大切さを感じました。(安部)



民有地とのコンクリート境界と伐採された木

メンバー随時募集 環境市民 活動カレンダー & おしらせ

環境モニター

市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

9/1(土) 9:30~12:00

集合場所:ニヶ領上河原堰土手のベンチ辺り

内容:ニヶ領上河原堰から下流域法面の植物調べ

持ち物:筆記用具・図鑑・ルーペ・カメラ・飲物

問合せ:環境政策課 042-481-7086

カニ山の会

9/8(土) 10:00~12:00

集合場所:深大寺自然広場(野草園横)

内容:林床整備等

原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へおいで下さい。

会費500円+保険料500円(年間)

問合せ:環境政策課 042-481-7086

人間・樹林の会

9/16(日) 9:30~12:00

集合場所:人間地域福祉センター

内容:樹林地保全活動

原則毎月第3日曜に活動しています。興味のある方は直接人間地域福祉センターへお越し下さい

問合せ:環境政策課 042-481-7086

国分寺崖線の整備・工事のお知らせ

若葉町3丁目第3緑地(10月~12月)と人間町1丁目緑地(11月~2月予定)の散策路、フェンス等の整備工事を実施します。この期間中、緑地内は、立ち入り禁止にしますので、ご協力をお願いします。

問合せ 緑と公園課(TEL042-481-7086)

編集後記

自然だよりの回を重ねるごとに載せたい事柄が増えてきた。読んで下さる方たちは何を知りたいのか、何に興味があるのか、と気になる。頂いた原稿をスペースに合わせて削るのも心苦しく、これでいいのだろうかと思いつながらの制作。でも時折「自然だよりを来て来ました」という活動参加者がいるのは、とても嬉しい。(鍛治)

ちょうふ あちこち

カニ山 辺り

カニ山で保全活動の折、セミの穴を沢山発見しました。

「いったいどうやって穴にもぐるのかしら？」

セミの卵は木に生みつけられ、来年の6月くらいに孵化して、小さな幼虫が土の中に入ります。木の樹液を吸って大きくなりますが、根の方の樹液は根から吸収した水分と養分なので栄養に乏しく、成虫になるのに時間がかかるそうです。

先日の新聞によると大阪では4年に1度のせみの当たり年だそうですが、調布のセミは一体何匹くらいいるのでしょうか。写真はカニ山の会メンバー小島さんが夜の公園で撮影した羽化の様子です。



環境政策課の窓

先日「都市のヒートアイランド」研修に参加しました。この夏、東京は真夏日が多く、地球温暖化の危惧を肌で感じたのは私だけではないと思います。実際、東京の気温は、100年間に3℃上昇しており、そのうちの2℃がヒートアイランド、1℃が地球温暖化によるものだそうです。したがって、都市においては地球温暖化防止対策に併せて、いかに都市を冷やすかが課題となっています。

講師の三上教授(首都大学東京大学院)によると、これまでの研究からまとまった緑地はその場所だけでなく、その場の冷気が壁となって周辺にしみ出す効果があり、都市を冷やすためには最も効果的であるということでした。

東京都では、公立学校の校庭を芝生化していくことを提案していますが、学校は、地域にほぼバランス良く配置されており、緑化のための土地をあらためて用意する必要がないことから好都合なのだそうです。

実際に視察した校庭を芝生化した現場では、気温を下げる効果が現れていました。当初心配された芝の管理は、児童、保護者、地域ぐるみで行っており、子どもたちの遊びや心の変化、子どもたちを見守る地域のやさしい目を育む効果もあったとのこと。 (環境政策課 仁藤美保)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます

市公式HP [くらし 環境・緑化](#) ちょうふの自然だより